

詩「平和の申し子たちへ！」 泣きながら抵抗を始めよう なかにし礼

二〇一四年七月一日火曜日
集团的自衛権が閣議決定された
この日 日本の誇るべき
たった一つの宝物
平和憲法は粉碎された
つまり君たち若者もまた
圧殺されたのである
こんな憲法違反にたいして
最高裁はなんの文句も言わない
かくして君たちの日本は
その長い歴史の中の
どんな時代よりも禍（まがまが）しい
暗黒時代へともどってゆく
そしてまたあの
醜悪と愚劣 残酷と恐怖の
戦争が始まるだろう
ああ、若き友たちよ！
巨大な歯車がひとたびぐらっと
回りはじめたら最後
君もその中に巻き込まれる
いやがおうでも巻き込まれる
しかし君に戦う理由などあるのか
国のため？ 大義のため？
そんなもののために
君は銃で人を狙えるのか
君は銃剣で人を刺せるのか
君は人々の上に爆弾を落とせるのか
若き君たちよ！
君は戦場に行つてはならない
なぜなら君は戦争にむいていないからだ
世界史上類例のない
六十九年間も平和がつづいた
理想の国に生まれたんだもの

平和しか知らないんだ
平和の申し子なんだ
平和こそが君の故郷であり
生活であり存在理由なんだ
平和ほけ？ なんとでも言わしておけ
戦争なんて真つ平こめんだ
人殺しどころか喧嘩もしたくない
たとえ国家といえども
俺の人生にかまわないでくれ
俺は臆病なんだ
俺は弱虫なんだ
卑怯者？ そうかもしれない
しかし俺は平和が好きなんだ
それのどこが悪い？
弱くあることも
勇気のいることなんだ
そう言つて胸をはれば
なにか清々しい風が吹くじゃないか
怖れるものはなにもない
愛する平和の申し子たちよ
この世に生まれ出た時
君は命の歓喜の産声をあげた
君の命より大切なものはない
生き抜かなければならない
死んではならない
が 殺してもいけない
だからこそ今！
もっともか弱きものとして
産声をあげる赤児のように
泣きながら抵抗を始めよう
泣きながら抵抗をつづけるのだ
泣くことを一生やめてはいけない
平和のために！

毎日新聞2014年7月10日 東京夕刊掲載。
集团的自衛権行使容認が閣議決定された7月1日、毎日
新聞からの依頼によりなかにしが書いた詩の全文です。